

市民活動センター「元気通信」

生き生きいるま 人・まち・自然

〒358-0003 埼玉県入間市豊岡 4-2-2 TEL/04-2964-2511 FAX/04-2964-2519
Eメール/ center@machisapo.com http://iruma-skcs.seesaa.net/

第3回協働のまちづくり懇談会 を開催しました … 2/14(日) 午後 2:00~5:00

第3回の懇談会は、全体として31名が参加して、2部構成で行いました。

第1部は、総務省の椎川忍審議官から、「地域力創造と地域おこしのヒント ~ 公務員参加型地域おこしのススメ」の基調講演を聞きました。「地方への権限や財源の分散だけでは地域は元気にならない。自分たちのことは自分たちで決められるように財源をわたす。地域づくりには公務員の参画が不可欠だ。分散自立型の社会をつくる必要がある」という地域主権や緑の分権改革の話など、地域づくりや協働のまちづくりに通じることを、ざっくばらんにわかりやすく話され、参加者からの質疑も活発に行われました。住民と行政職員が対峙する関係でなく、仲間として地域づくり・まちづくりを行うことが大事だと強調されました。



講師 椎川 忍氏
総務省地域力創造審議官



第2部は、(仮称)市民協働事業提案制度について、自治文化課からこれまでの経過や制度の目指すもの、制度の特徴、制度の概要 近隣の他市の状況・事例を説明し、これをもとに参加者の皆さんと活発な意見交換が行われました。参加者からは、担当職員の協働に対する意識改革、各課のかかわり方、提出書類を簡素になどの意見、市民側から見た行政の壁、行政各課の壁、市民間の壁など、さまざまな課題があげられました。必ずしもお金の面だけでなく、市民活動団体と市職員が協働できることもある中で、今後どう協働事業を進展させるか庁内での取り組みを進め、協働への取り組みを検証しながら、当面する課題を解決していきたいなど、自治文化課ほか市職員の方たちから意見がありました。

(仮称)市民協働事業提案制度(案)の概要

目的	地域課題について市民の発想を活かした提案を募集、市との協働事業として実施。市民ニーズへの対応、公共サービスの向上につなげる。
対象事業	1)自由提案型事業 2)市テーマ設定型提案事業
事業規模	1事業当たり10万円上限、総額30万円(H22年3月議会承認後確定)
審査方法	一次選考(書類審査)、二次選考(公開プレゼンテーション)
実施時期	H22年度 前半は制度の説明・募集事業の実施は後半を予定

最後に基調講演をしていただいた椎川さんから、「行政は、補助金を出したら終わりという気になるのはやめた方がよい。お金を出さなくてもやれることはたくさんある。市民活動を助ける庁内サポーターとか、そういう職員を公募するとか、いろいろ工夫することがよいのでは」など、アドバイスをいただきました。いつもの懇談会よりは長時間にわたりましたが、とても内容の濃い3時間の懇談会が、盛況のうちに終了しました。

(仮称)市民協働事業提案制度については、懇談会での意見を参考にさらに内容を詰め、事業の募集等の具体的内容は市HP等で紹介していく予定となっています。

助成金申請の企画書づくり講座 を開催しました

…第1回 1/15(金) 第2回 1/22(金) 第3回 1/29(金) 午後6:30~8:30

藤木照治氏（経営コンサルタント・まちサポ役員）を講師に、3回にわたって助成金申請の企画書づくり講座 - どうすれば助成金がもらえるのか - が開かれました。

1回目は、「こんなにお得な助成金があったのか～基本情報からテーマ選定」ということで、助成金の選び方から企画書の書き方について学びました。多くの助成金を獲得してきた経験から、助成金申請のコツを伝授してもらいました。また、助成金を受けた後の事務処理、報告書づくりの大変さ、助成金科目に沿ったお金の使い方など、助成金獲得は苦労する部分はあっても、活動の幅が広がる充実感から助成金へのチャレンジは価値のあることと、なるほどと納得のいく話でした。

（参加者 16 名）



講師 藤木照治氏
(経営コンサルタント)



2回目は、「200万円を獲得した申請書の書き方を分解～企画書を書いて演習します～」をテーマに、前半は助成金の種類、探し方、実際の申請書の事例から採択される申請書のポイントを伝授してもらいました。後半は、参加者に助成を希望する活動（事業）のテーマを申請書の様式に沿って書いてもらい、2つの代表例をたたき台に、参加者の意見も交えながら、採択されるよ

うなわかりやすい形に仕上げていく作業をしました。意見交換しながら、次第にまとまっていく様子になるほどこういう風にしていけばと参加者の皆さんも納得の様子でした。（参加者 14 名）

3回目は、「ここをアピールして好印象を得よう～企画をプレゼンテーションして予行演習～」をテーマに、前半は1・2回の振り返りを行い、企画書づくりのポイントを伝授してもらいました。後半は、ワールドカフェという方法で、「市民活動に助成金を活用する」をテーマに、4人ずつのテーブルに分かれて話し合い、メンバーが入れ替わり移動しながら、模造紙に発言を自由に書き込み、意見交換をしました。意見交換しながら、新たな発見もあるなど、ワールドカフェという新しい方法に、参加者の皆さんは生き生きとした様子で、おもしろかったと評判も上々でした。（参加者 12 名）



< 参加者の感想 >

助成金については何の知識なかったのですが、講義がとてもわかりやすく丁寧でしたので、スムーズに理解することができました。

助成金という制度を知っているだけでも、市民活動をする上でとても有益なのではないかと思いました。

また、助成金の申請書を書くことで、自分の行う事業の目的やテーマが明確になるのではないかと、申請書はそんな付加価値もあるような気がしました。

自分が行う事業活動を第三者の目になって、自分自身で点検できるのなら、例え審査に落ちても、助成金の申請書づくりはやって損はないと思います。

ワールドカフェ詳細

<http://www.humanvalue.co.jp/service/wcafe/>

< 助成金とは? >

市民活動やNPO活動でお金が必要な場合、行政や財団、企業からお金を助成してもらう制度のこと。行政は国、県及び市町村、財団はトヨタ財団など、企業は東京ガス、三井物産、TOTOなどが助成金を支給しています。また、助成金の分野は、環境系、福祉系、教育系、まちづくり系、IT系などがあります。

< 助成金の情報はどこにあるの? >

助成金情報は、下記 URL、埼玉県 NPO 情報ステーションなどから得られます。

<http://www.saitamaken-npo.net/database/index.php?M=MNYL>

< 助成金を受けるには? >

自分の活動分野にあった助成金を見つけたら、申請書を書きます。この申請書を魅力的に書かないと、審査に落ち、助成金を受けられません。

< 申請書ってどんなもの? >

申請書に記入すべき内容は、組織の基本情報から、事業の背景、目的、事業スケジュール、予算内訳などです。

活動団体紹介

このコーナーでは、市内で活動する団体の皆さんに登場いただき、活動内容やイベント情報の提供をしています。

高齢社会と住環境を考える会

代表：河井 清子 TEL 04-2964-1828
〒358-0023 入間市扇台1-3-35

私達のグループの活動内容は「いつまでも元気に生き生き暮らせる住環境の整備を考えよう」という目的の会です。

国立社会保障・人口問題研究所によると、2017年（平成29年）には、後期高齢者（75歳以上）人口が前期高齢者（65歳～75歳未満）人口を上回ると推計されています。また、同研究所によると65歳以上の世帯のうち単独世帯の割合は、2025年には37.1%まで上昇すると予想されています。平成20年1月現在の入間市の高齢者のみの世帯は6,099世帯、単独世帯は2,446世帯ですが、高齢者のみの世帯や高齢単独者世帯の両方とも今後増加が見込まれます。

子供達との同居については、自分達の周辺でも子供達が親の介護で同居は望みたくとも望めない現実があります。それは子供達の自立した生活、つまり人生が立ちゆかなくなることもあるからです。また、持家を処分して介護付き施設に移ろうとしてもいろいろな課題がでてきます。契約内容の詳細な部分まで確認を怠ったために、入居してからの負担金やサービス条件で不満な日々を過ごす事例も聞きます。また、施設経営者の倒産で入居者が全く行き場を失った事例がマスコミで取り上げられたこともありました。住環境の整備は、その人の住んでいる環境・身体の状態により一人ずつ異なっています。自分のこと、我が家の問題を自分のテーマにして、これからの自分の住まいのことを考える必要があります。

高齢社会では、高齢者ができるだけ長く、快適に自立生活を続けられるような対策が必要です。とくに、安全・安心できる住まいづくりや高齢者の社会参加ができる住環境の整備が切実な課題になっています。

私たちの団体は、少しでも安全に安心して暮らしていけるよう、病気や障害をおったときの住環境や制度のこと等を学び合い、将来に備えていきたいと考えています。

高齢者だけでなく、若い人たちも混じって高齢社会と住環境への対策、仲間のネットワークの輪を広げていきたいので、一緒に仲間として活動して行きませんか。



人間六ツ星会

代表 加藤 千秋 TEL 04-2963-1014
〒358-0003 入間市豊岡4-2-2
入間市社会福祉協議会内

「人間六ツ星会」は視力障害者に点字での情報提供を行っている点訳ボランティアです。昭和50年に発足して今年で35年目を迎えます。

会の名前にも由来する6つの点の組み合わせで出来ている点字は視覚障害者にとって大切な情報手段です。

点訳はただ墨字文章を点字にするだけではなく、その内容を理解し、正確な読み方を調べ、正しく当事者に伝えるという大変責任のある仕事です。でもそれが普段読まない本や文章にふれることのできる楽しみでもあります。点訳のやり方も始めは一つひとつ手打ちで打っていたものが、今ではパソコンに変わり一つのデータを作成すると複数の点訳文書が製作できるようになりました。それにより市広報紙(広報いるま・社協だより・市議会だより)や市依頼文書、依頼図書等点訳活動も広がっています。健康福祉センター・図書館本館に点字版広報紙がおいてありますので、見かけたらぜひ触ってみてください。

また、川越市にある塙保己一学園(旧県立盲学校)の課題図書の点訳、市内小・中学校の総合学習の協力等、様々な活動をしています。

点字について多くの方に知っていただき、視覚障害者へのご理解のため、毎年市内で開催する生涯学習フェスティバルや健康福祉センターまつりにも参加しています。点字で自分の名刺を作ってみませんか！

このほかに、「四つ葉会」(視力障害者福祉協会、はづき、あいあい、六ツ星会)で情報交換のための交流をしています。自分たちの会では気づかない色々な意見が聞けることで活動に活かしています。

隔年で社会福祉協議会主催の「点訳ボランティア養成講座」を開催しています。この講座を受講し、点訳の基礎を学んだ方ならどなたでも入会できます。次回は平成23年に予定しています。ぜひ興味のある方はご参加ください。お待ちしております。



センターからのお知らせ

◆ロビーでフォト作品展を実施しました

入間団塊元気サイト募集フォト作品展が、2月中からイルミン1階ロビーで開催されました。

フォト作品展のテーマ「私の好きな入間」へ市民から62点もの応募をいただきました。見学者からお気に入りの作品を選んでもらう人気投票も実施し、人気ナンバーワンに「入間をつなぐさんかくはし」(仁礼隆司さん)が選ばれました。

また、昨年好評だった、「昔のいるま写真展」も併設しました。昔の入間と今の入間を見比べ、「ここ、昔はこんなだったの?」と皆さんの話が弾んでいました。



◆コミュニティカフェをオープンします

市民活動センターを利用する活動団体相互の、情報交換や活動団体と入間市との協働促進に向けて、3/29(月)から、活動団体のメンバーが気軽に集える場「コミュニティカフェ」をオープンします。場所はイルミン1階の受付窓口横の通路をまっすぐ進んだ奥の右側です。

コミュニティカフェでは、テーブルや椅子の他にPC/インターネット/プリンターの利用ができます。そして、セルフサービスによりコーヒーなどの飲み物も利用できます。

(利用者は、寄付をお願いします)

当面、コミュニティカフェはセンター登録団体を対象に、平日13:00-17:00にオープンします。利用法詳細については、センターのホームページに掲載します。皆様のご利用をお待ちします。



◆「イルミン」ロゴデザインの応募作品を展示予定

市民活動センターの開館5周年記念事業の一環として、建物の愛称「イルミン」のロゴデザインを募集しています。3月末の募集締切後にはイルミンのロビーに応募作品を展示し、ロゴ一点を選考する予定ですので、皆さんお気に入りのロゴを選んで下さい。

愛称「イルミン」
ロゴデザインを募集

募集期間：2010年1月1日～3月末

入間市市民活動センターおよび男女共同参画推進センターでは、市民に親しまれる愛称「イルミン」の**ロゴデザイン**を募集します。

◆「イルミン」の看板ができました



3月23日、加治丘陵山林管理グループの皆さんが製作した「イルミン」看板がイルミン入口に設置されました。檜の丸太の側面を削り、白ペンキの表面に桜の枝で文字「イルミン」と書かれています。素晴らしい看板です。イルミンに、ご来場の折はぜひご覧下さい。

3月23日、加治丘陵山林管理グループの皆さんが製作した「イルミン」看板がイルミン入口に設置されました。檜の丸太の側面を削り、白ペンキの表面に桜の枝で文字「イルミン」と書かれています。素晴らしい看板です。イルミンに、ご来場の折はぜひご覧下さい。



<http://www.machisapo.com/>

編集・発行/まちづくりサポートネット元気な入間(市民活動センター内)